

第123回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成27年9月

日時: 2015年9月25日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 1号館 308号室
◆主催: 防災塾・だるま 司会: 早川雅子 記録: 紅林敏行
◆談義の会参加者: 会員28名 一般9名(含む講師) 計37名 (敬称略)



茅野さん(講師)



報告資料の写真から(左: 大洞崩壊跡と白糸川河口 右: 広島土石流発生前・後)



池田副塾長(緑区土砂災害新聞記事紹介)

テーマ: 『関東大震災 神奈川県知られざる 恐ろしい土砂災害を知る!』
～根府川大洞調査報告(調査期間:H24年12月15日～H25年4月13日)～

報告: 茅野 光廣氏 (ネテクハツ コアリツ(株)代表取締役、技術士、10周年企画「よこはま防災まち歩き」講師)

●根府川集落を襲った土石流(1923/9/1 関東大震災により発生)

白糸川上流の大洞で大崩壊が発生し、崩壊土砂(東京ドームがほぼ満杯となる崩壊土量)が白糸川沿いに土石流となって流下し、河口に達した。本震が収まった後、5～6分で根府川集落に到達。都根府川集落の大部分が埋め尽くされ、約300名が犠牲となった。

《土石流が発生する3条件》

- ①「不安定な地盤」: 大洞付近には2つの山体があり、いずれも溶岩円頂丘であった。
- ②「大量の水」: 9/1朝までの雨量(100～200mm)。白糸川も大幅に増水。
- ③「勾配のある地形」: 崩壊源頭地と白糸川の高低差は200m、距離500m、勾配22°。白糸川流入位置～河口の高低差400m、距離3500m、勾配7°

●災害の伝承・・・2013/8/20 広島市安佐南区八木地区の土石流災害

この地区の昔の地名『蛇落地悪谷』(じゃらくちあしだに)。今の地名は『上楽地』。災害の伝承はいつのまにか消え去り、ある日突然同じ災害が繰り返される。なぜこんな危険な場所に建築がなされたのか?



講義風景(活発な質疑応答)

●神奈川県の土砂災害・・・全国土砂災害発生件数(平成14～23年度)

第2位 857件(国交省統計)。土砂災害のタイプは95%が崖崩れ。その大半が三浦半島で発生。崩壊規模は比較的小規模。表土が岩盤の上を滑り落ちる表層崩壊が大部分。大部分の崩壊は『0次谷地形』(沢の始まりの地形で、深さよりも幅が広い地形のこと)で繰り返して発生。



早川さん(司会)

●質疑応答での主なキーワード

「累計雨量(神奈川県なら200～250mm)に注意」、「土砂災害防止法(特別警戒区域等の危険箇所指定)」、「伊東市立富戸小学校(富戸を知る、ゾウガク学習)」

●次回(第124回)案内

- 日時: 2015年10月16日(金) 18時～19時30分 ・会場: 神奈川大学 24号館 310号室
- 話題: 10周年記念事業第3弾前半「『防災塾・だるま』活動への提言」
- 講師: 杉原 英和氏(神奈川県安全防災局 災害対策課長) 中川 和之氏(時事通信社 論説委員) 渡辺 渉氏(神奈川新聞社 報道部)